

東京都立石神井高等学校 平成31年度 教科（ 地理歴史 ） 科目（ 地理A ） 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：地理A 単位数：2単位

対象学年組：第1学年A組～G組

教科担当者：A・D～G組：佐藤創一郎 印 B・C組：大野有里沙 印

使用教科書：新版高等学校地理A世界に目を向け、地域を学ぶ（第一学習社）、新詳高等地図（帝国書院）

使用教材：二訂版新編地理図表GEO（第一学習社）

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	導入、中学の復習	成績・評価の方法の説明、上級学校対応型ノート法の解説	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	1
	さまざまな地球的課題 人口、食料、都市、環境	様々な地球的課題について世界的な視野から理解できる。	ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	3
		さまざまな地球的諸課題は、地域性により、地域によって現れ方が異なることを理解している。	評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	
		さまざまな地球的課題を解決する方向性について、その背景に南北問題が存在することを理解するとともに、課題解決に向けて取り組むべきことなどを理解する。		

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	さまざまな地球的課題	様々な地球的課題について世界的な視野から理解できる。	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	4
		さまざまな地球的諸課題は、地域性により、地域によって現れ方が異なることを理解している。	ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	
		さまざまな地球的課題を解決する方向性について、その背景に南北問題が存在することを理解するとともに、課題解決に向けて取り組むべきことなどを理解する。	評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	
	中間考査			1
	答案返却と問題解説	解答に際しての着眼点、誤答例など、入試実践力養成を意識した解説を行う。		1

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	世界の諸地域の生活・文化と環境 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	地球儀や世界地図を活用して、地軸の傾きによる季節変化や回帰線・極圏について理解する。	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	8
		狭まるプレート境界に地震や火山が多いことを、その構造とともに理解する。また、広がる境界は海底に多く分布するが、アイスランドなど一部は地上で見られることを知る。トランスフォーム断層を知る。	ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	
		大気の大循環やモンスーンのメカニズムについて理解するとともに、ケッペンの気候区分の分布と特色について理解する。	評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	
		世界の民族と言語、宗教との関連を理解する。また、歴史的背景から一部に民族問題や地域紛争が存在することを知る。		

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	期末考査		定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	1
	答案返却と問題解説	解答に際しての着眼点、誤答例など、入試実践力養成を意識した解説を行う。	ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	1
	第2編第1章 日常生活と結びついた地図	地形図において、縮尺を用いて実際の距離や等高線から任意の地点間の標高差を求めたり、尾根と谷を見分けたりすることができる。土地利用と人間生活のかかわりを理解するとともに、同じ地域の新旧の地形図を比較することで、地域の変容を理解する。	評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	1

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月				

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	世界の諸地域の生活・文化と環境 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	世界の諸地域の生活・文化について、諸資料を活用して、地形、気候をとらえるとともに、歴史的背景を踏まえて宗教、民族、農業、工業、商業、貿易、日本とのつながりなどに関連付けてとらえ、世界の多様性について理解する。	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	4
			ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	
			評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	世界の諸地域の生活・文化と環境 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	世界の諸地域の生活・文化について、諸資料を活用して、地形、気候をとらえるとともに、歴史的背景を踏まえて宗教、民族、農業、工業、商業、貿易、日本とのつながりなどに関連付けてとらえ、世界の多様性について理解する。	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	4
			ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	
	中間考査		評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	1
	答案返却と問題解説	解答に際しての着眼点、誤答例など、入試実践力養成を意識した解説を行う。		1
	地球儀や地図でとらえる現代世界	日付変更線やサマータイム制度について理解し、それらを含めた時差の計算ができる。		1

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	地球儀や地図でとらえる現代世界	国境には自然的国境や人為的国境があることを理解する。また、日本固有の領土である北方領土問題と竹島、尖閣諸島の現状について歴史的経緯を踏まえて理解する。	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	8
		主題図と統計を活用して加工貿易や垂直・水平貿易、国際分業などについて理解する。	ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	
		年次の異なる主題図や統計を活用して交通の発達による地域の変容や観光による国際的な人々の結び付きについて理解する。	評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	

指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12月 期末考査		定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	1
答案返却と問題解説	解答に際しての着眼点、誤答例など、入試実践力養成を意識した解説を行う。	ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	1
自然環境と防災	日本の地形、気候の特色と過去に発生した主な自然災害について理解するとともに、過去の自然災害への対応について土地利用、集落の位置や家屋の形状などから理解する。	評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	1

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	世界の諸地域の生活・文化と環境 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	世界の諸地域の生活・文化について、諸資料を活用して、地形、気候をとらえるとともに、歴史的背景を踏まえて宗教、民族、農業、工業、商業、貿易、日本とのつながりなどに関連付けてとらえ、世界の多様性について理解する。	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	4
			ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	
			評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月	世界の諸地域の生活・文化と環境 世界の人々の生活を取りまく地理的環境	世界の諸地域の生活・文化について、諸資料を活用して、地形、気候をとらえるとともに、歴史的背景を踏まえて宗教、民族、農業、工業、商業、貿易、日本とのつながりなどに関連付けてとらえ、世界の多様性について理解する。	定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	4
			ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	
			評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	

	指導内容	地理Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月	期末考査		定期考査、小テストおよび提出課題を点数化し、評価のベースとする。	1
	答案返却と問題解説	解答に際しての着眼点、誤答例など、入試実践力養成を意識した解説を行う。	ノート提出と前時授業要旨の発表を加点要素として年度末に加え、評定を決定する。	1
	生活圏の地理的な諸課題と地域調査	地域調査の方法として直接現地で行う方法と学校の図書館などで文献や資料を利用する方法を理解する。地域調査の方法として直接現地で行う方法と学校の図書館などで文献や資料を利用する方法を理解する。	評価の素となる諸要素や評価の仕組みについては事前に明確に生徒に対して示し、各自の学力向上意欲亢進を図る。	1